

氏名(本籍)	澤	隆	史(東京都)
学位の種類	博士(教育学)		
学位記番号	博乙第1,256号		
学位授与年月日	平成9年3月24日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	心身障害学研究所		
学位論文題目	聴覚障害児の言語的比喩の理解に関する実験的研究		
主査	筑波大学教授	教育学博士	吉野公喜
副査	筑波大学教授		中西靖子
副査	筑波大学助教授	学術博士	斎藤佐和
副査	筑波大学教授	教育学博士	海保博之

論文の内容の要旨

本研究は、これまでの聴覚障害児の読みに関する研究が語彙力や統語的能力の解明に偏向し、一方で意味論的側面からの解明が不十分であるという問題を踏まえて、意味論的側面から見た聴覚障害児の読みにおける最も顕著な問題の一つである言語的比喩の理解を取り上げ、その特徴や問題点を実験的に検証すると共に、有効な指導上の観点を提示しようとしてなされたものである。本論文では、特にこれまで明らかにされてこなかった、聴覚障害児における比喩の理解の発達、比喩の理解と事物に関する意味的理解や読みの能力との関係、比喩の解釈やイメージの想起について、10の実験を実施し多角的側面から総合的な検証を行っている。聴覚障害児における比喩理解の発達については、理解に影響すると考えられる比喩の文体、意味内容、特徴陳述型の要因を取り上げ、それらの要因の影響を健聴児との比較から検討している(実験1～実験3)。そして、聴覚障害児の比喩の理解は健聴児と比較して年齢的な遅滞が認められること、年齢に伴う発達よりも理解の個人差が顕著であること、比喩の各々の要因や文脈の有無等の課題要求の程度が、理解力の評価に大きな影響を及ぼすことを示した。特に、聴覚障害児の比喩文理解の困難さは、事物の概念的な特徴を言及した比喩において顕著であるという結果から、事物に関する意味的知識の不足や未精緻が比喩理解の困難を引き起こす大きな要因であることを提起した。そして、この比喩理解に与える意味的知識の影響を詳細に検討するために、聴覚障害児における比喩理解の良好群と困難群の間で、事物に関する意味的理解の特徴に関する比較・検討を行っている(実験4～実験7)。実験の結果、比喩理解に困難を示す聴覚障害児は、事物に関する意味的理解が自己の経験に基づいた恣意的な段階に止まること、固定化された一義的な理解を行う傾向が強く多義的な理解が困難であることを示し、意味的理解力の発達の遅滞が比喩理解の困難を引き起こす要因であることを検証した。また、比喩理解と読みの能力との関連を検討した結果から(実験8)、比喩理解は読書力や読解力と強い関連性を示すこと、特に意味的に複雑な内容を表す比喩の理解が精緻な読解力と関連することを示した。さらに、比喩理解における質的側面を検討するために、聴覚障害児における比喩の解釈と比喩から想起されるイメージの特徴について分析し(実験9～実験10)、聴覚障害児が比喩の解釈によって得るイメージは基本的に健聴者と同様であるが、全般的な傾向として聴覚障害児の比喩の解釈は精緻なレベルに達していないこと、特に事物の持つ複数の属性を転写させることによる比喩の創造的な解釈が困難であることを示した。また、比喩理解が困難な聴覚障害児においては、比喩の解釈によって生じる意味的变化の程度が小さいことを明らかにした。

以上のような実験結果を総合的に考察し、本論文は以下のことを結論として提示している。(1)聴覚障害児の比喩の理解は、健聴児と比較して年齢的な遅れが顕著である。年齢に応じた発達の傾向よりも理解の個人差が大きい。(2)健聴児と同様に、文体や意味内容といった比喩に関わる要因が理解に影響を及ぼし、特に複雑な意味的内容を表現する比喩の理解における困難が顕著である。(3)聴覚障害児の比喩理解における困難さは、事物に関する意味的知識と、自分の持っている知識を駆使する際の分析力の問題に起因する。(4)比喩の理解が困難な聴覚障害児の場合、意味的知識が一義的で自己の経験に基づく恣意的な構造に止まっている。(5)自己の持つ意味的知識を十分に活用し、比喩のより創造的な理解を行うことが困難である。そしてこれらの実験の結果から、聴覚障害児に対する比喩の指導においては、意味的知識の質的な変化を促し知識の精緻化を図ることが重要であり、そのためには多様な経験に基づくイメージの拡充、イメージの言語化を指導上の観点として留意する必要があること、また能動的な学習によるメタ的能力を高めることで分析的能力を培うことがより重要であることを考察した。加えて、より体系的な指導を実践するためには、指導の対象となる比喩の選定において、子どもの能力に応じて文の修辭的特徴を考慮した精選を行うことが必要であることを提起した。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、聴覚障害児の読みにおける意味論的側面に着目し、比喩の理解に影響を及ぼすと思われる要因を丹念に整理し、聴覚障害児の比喩の理解の特徴について実験を重ね、詳細な分析を試み、比喩文理解の困難さの要因を明示しているものである。しかし、実験の手法が多岐に亘り、一貫性にかけること、対象とした比喩表現が限定されていること、比喩の理解プロセスの検討に曖昧さを残していること、そして個々の聴覚障害児が持つ障害の程度や特徴、あるいは生育歴や学習経験の違いをも考慮した分析が必ずしも十分でないことなど批判の余地を残していることは否めない。

よって、著者は博士（教育学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。